

# Windows CE のサンプル jConnect アプリケーション

**注意:** この文書は、Adaptive Server Anywhere 7.0.1 と、Sh3 プロセッサを搭載した Windows CE 2.11 を対象として書かれています。

この技術文書には、sample.java と sample.class という 2 つのファイルが付属しています。(1011021sample.zip)

この Java アプリケーションには 2 つの引数が必要です。最初の引数はホスト・マシン名または IP アドレスです。2 番目の引数は Sybase サーバ名です。

**要件:**

Java アプリケーションを Windows CE で実行し、アプリケーションと SQL Anywhere 7.0 の間で通信を確立するためには、次の設定を満たす必要があります。

- 1)バージョン 2.11 以降の Windows CE を実行している Windows CE デバイス
- 2) Windows CE 2.11 以降用の PersonalJava(TM)Runtime Environment バージョン 1.0
- 3)jConnect ドライバがインストールされている

**Sh3 プロセッサを搭載した CE での PersonalJava の設定:**

A) PersonalJava のダウンロード: PersonalJava を持っていない場合は、次のアドレスからダウンロードできます。

<http://developer.java.sun.com/developer/earlyAccess/personaljava/>

B) PersonalJava のインストール: PersonalJava ファイルを解凍したら、pjavawince.sh3.CAB という CAB ファイルを CE デバイスの temp フォルダにコピーします。

C) CAB ファイルをクリックする: この操作により、PersonalJava がデバイスにインストールされます。

**PersonalJava と他のプロセッサ:** MIPS や ARM などの別のプロセッサで Java アプリケーションを実行する場合は、そのプロセッサ用の PersonalJava をダウンロードする必要があります。各プロセッサには、それぞれ固有のランタイム環境があります。

**デバイスへのアプリケーションのダウンロード** a) デスクトップでは、Java 1.1.8 以降を使用してアプリケーションをコンパイルできます。

b) アプリケーションのコンパイルが正常に終了したら、クラス・ファイルを Windows CE デバイスにコピーします。このアプリケーションは、任意のフォルダに入れることができます。この文書の例では、ルートに "javadb" というフォルダを作成します。ルートは円記号 ¥' なので、このフォルダは ¥javadb になります。

c) CE で実行されている Adaptive Server Anywhere に接続するためには、アプリケーションが入っているフォルダに jConnect jdbcdrv.zip ドライバをコピーします。このドライバは、ASA for Windows NT/95/98 インストールの %ASANY7%¥java (つまり c:¥program files¥Syase¥SQL Anywhere 7¥java) というフォルダにあります。これで、¥javadb フォルダには application.class および jdbcdrv.zip という 2 つのファイルが入ることになります。この文書の例では、sample.class と jdbcdrv.zip が入りません。

**デバイスにおける Java アプリケーションの設定:**

a) CE デバイスでは、実行ファイル pjava.exe のショートカットをデスクトップに作成します。

CE でショートカットを作成するには、次の手順に従います。

- 1- このファイルがあるフォルダ (¥program files¥Java¥bin¥pjava.exe) に移動します。
- 2- ファイルを強調表示します。
- 3- [Alt] キーを押しながら、強調表示したファイルをクリックします。
- 4- ポップアップ・メニューが表示されます。
- 5- [コピー] を選択します。
- 6- デスクトップに移動します。
- 7- [Alt] キーを押しながら、デスクトップ上の空いている領域をクリックします。
- 8- ポップアップ・メニューが表示されます。
- 9- [ショートカットの貼り付け] を選択します。
- b) ショートカットを強調表示します。
- c) [Alt] キーを押しながら、強調表示したショートカットをクリックします。
- d) [プロパティ] を選択します。
- e) [ショートカット] タブをクリックします。
- f) [リンク先] ボックスに、次の行を追加します。

```
-classpath "¥javadb¥jdbcdrv.zip;Classes" -file ¥javadb¥sample.class asademo
```

**注意：**この行は、次のように作用します。

- 1) -classpath : JConnect ドライバを含めるためのクラス・パスを設定します。
- 2) -file : 実行するのがこのアプリケーションであることを Java に通知します。
- 3) asademo : これは引数です。したがって、アプリケーションに引数を渡すことができます。
- g) 最終的な行は次のようになります。
- h) "¥program files¥Java¥bin¥pjava.exe" -classpath "javadb¥jdbcdrv.zip;Classes" -file ¥javadb¥sample.class  
asademo
- i) [OK] をクリックします。
- j) これで、アプリケーションが使用可能な状態になります。

#### データベース・ファイルのコピー：

- 1) デスクトップのフォルダ c¥program files¥sybase¥sql anywhere 7¥ からデバイスの ¥javadb フォルダに、asademo.db をコピーします。

**注意：**CE デバイスにインストールされている asademo は使用しないでください (このデータベースは Java をサポートしていません)。

#### デバイスにおける Sybase サーバの実行：

- 1) dbsrv7.exe のショートカットをデスクトップに作成します。ショートカットの作成方法については、前項を参照してください。
- 2) このショートカットのプロパティを選択します。
- 3) [ショートカット] タブをクリックします。
- 4) [リンク先] ボックスに、-x tcpip "¥javadb¥asademo.db" -z を追加します。

**注意：**-x tcpip を指定するのは、tcpip を使用してサーバが接続を受け入れるようにするためです。

- 5) [OK] をクリックします。
- 6) ショートカットを 2 回クリックして、サーバを実行します。

7) サーバが起動して、小さなアイコンが右下隅に表示されると、サーバが使用可能な状態になります。

あとは、この項で作成した **Java** ショートカットを実行するだけです。

画面に顧客情報が表示されます。

ID First Name Last Name